

# 基礎動詞 *fahren*、*gehen*、*laufen* に及ぼす非分離前綴 *be-*、*ent-*、*er-*、*ver-*、*zer-* の作用

## Die Wirkungen der Präfixe *be-*, *ent-*, *er-*, *ver-*, *zer-* auf die Grundverben *fahren*, *gehen*, *laufen*

大 島 浩 英  
Hirohide OSHIMA

0. ドイツ語の複合動詞における前綴には多くの種類があり、そしてそのそれぞれの前綴がさらに独自の作用を基礎語に及ぼしている。この基礎語には動詞以外にも名詞や形容詞が考えられるが、本稿で取り扱う基礎語にかんしてはこれを、非分離前綴 *be-*、*ent-*、*er-*、*ver-*、*zer-* すべてが共通してもつ基礎動詞に限定し、これらの動詞と前述の前綴との結合体である *Präfixverben* を考察することによって、前述の非分離前綴がもつ根本的な機能を見出そうとすることが本研究の目的である。

1. まずここで考察の対象となる、*be-*、*ent-*、*er-*、*ver-*、*zer-* すべてが共通してもつ基礎動詞は次の8個の動詞である。„*fahren*, *gehen*, *lassen*, *laufen*, *schlagen*, *setzen*, *sorgen*, *strahlen*“ そして本稿においてはまずこれらのうち „*Fortbewegung*“ の意味を共通してもつ *fahren*、*gehen*、*laufen* についての分析を行っていくことにする。

基礎動詞 *fahren* にそれぞれ非分離前綴を付加していくと次のような用例が挙げられる。

*befahren*: 1) Er befährt die Kreuzung.

1') Sn - Vf - Sa

2) Er befuhr (mit seinem neuen Wagen) diese Straße.

2') Sn - Vf - (pSd) - Sa

3) Er befuhr den Fluß (mit einem Dampfer).

3') Sn - Vf - Sa - (pSd)

4) Er befährt den Weg mit Kies.

4') Sn - Vf - Sa - pSd

5) Bergleute befahren den Schacht.

5') Sn - Vf - Sa

*entfahren*: 6) Ein Seufzer, ein Fluch entfuhr ihm/seinem Munde.

基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer-の作用

6') Sn - Vf - Sd

7) Blitz und Donner entführen den Wolken.

7') Sn - Vf - Sd

erfahren: 8) Sie erfuhr, Näheres über die Angelegenheit/daß er versetzt wird/  
von dem Unglück.

8') Sn - Vf - Sa/NS/pSd

9) Er erfuhr (in seinem Leben) viel Böses, Glück.

9') Sn - Vf - Sa

10) Die Produktion erfuhr eine Erhöhung.

10') Sn - Vf - Sa

verfahren: 11) Er verfährt streng (mit seinen Schülern)/nach dem gleichen  
Schema.

11') Sn - Vf - modal(- pSd)/pSd

12) Er verfuhr sich (bei dem Nebel).

12') Sn - Vf - Refl (- pSd)

13) Ich verfuhr viel Zeit(viel Benzin/50 DM mit dem Taxi).

13') Sn - Vf - Sa

14) Er verfährt eine Schicht.

14') Sn - Vf - Sa

zerfahren: 15) Lastautos zerfuhren die Straßen.

15') Sn - Vf - Sa

16) Die nachfolgenden Autos zerfuhren die auf die Straße gefallenen  
Kohlen.

16') Sn - Vf - Sa

(Sn=Substantiv im Nominativ, Sd=Substantiv im Dativ, Sa=Substantiv im  
Akkusativ, Vf=Verbform auf syntaktischer Ebene, pSd=präpositionales  
Substantiv im Dativ, NS=Nebensatz, Refl=Reflexivpronomen)

さてこれらの用例について、基礎語の fahren との関係においてその統語的及び意味  
的特徴を考察していくことにする。Helbig/Schenkel は fahren を次の 5 つの  
Variante に分類している<sup>1)</sup>。V(Variante)1: Sn - Vf (- pS) [Das Auto fährt  
(nach Berlin).]、V2: Sn - Vf (- p<sub>2</sub>S)(- p<sub>1</sub>S) [Seine Frau fährt (mit dem  
Wagen) (nach Dresden).]、V3: Sn -Vf (- Sa) [Der Kollege fährt (einen  
Wartburg).]、V4: Sn - Vf - Sa (- pS) [Der Arbeiter/Die Firma fährt die  
Möbel (nach Berlin).]、V5: Sn - Vf - pSa [Der Junge fährt über ihr Haar.] そ

してまず *befahren* の場合を考えてみる。*befahren* を含む上記 1) ~ 5) すべての例文において *Sa* の4格目的語が現れているが、その意味特徴を見てみると、1)、5)の *die Kreuzung*、*den Schacht* は *fahren* することによって接近・到達されるべき場所を、2)、3)の *diese Straße*、*den Fluß* は *fahren* して通過する領域をそれぞれ表している。これに対して4)の *den Weg* は、その上を *fahren* すべき場所という認識よりもむしろ、そこに砂利を敷くべき対象としての場所と把握されている。本来 *be-* には、*Steine auf den Wagen laden* → *den Wagen mit Steinen beladen*、*in einem Zimmer wohnen* → *ein Zimmer bewohnen*、あるいは上の例文2)のように „*Er fuhr auf dieser Straße.* → *Er befuhr diese Straße.*“ といったように、自動詞を他動詞化したりあるいは他動詞の目的語を変化させたりする作用があるため、基礎動詞 *fahren* においても類似した作用が認められるのだが、このことは Helbig/Schenkel の分析において、*fahren* がもつ5つの *Variante* のうち、V3、V4 にだけしか他動詞としての用例が挙げられていないのに対して、*befahren* はそのすべての用例において4格目的語をとっていることからわかる。意味的には *befahren* の場合、1)~3)が „*auf etwas fahren*“、4)が „*im Fahren mit etwas bestreuen*“、そして5)が „*in ein Berkwerk fahren*“ というように、すべて *fahren* という動作を基本にした意味をそれぞれ構成しており、*fahren* の *Variante* 1、2 との関連性を強く残しているように思われる。

次に *entfahren* の例に移ると、6)、7)いずれも4格目的語ではなく3格名詞をとる自動詞となっており、この場合は動作の起点が3格名詞によって表現されている。*fahren* との関連では *fahren*、*entfahren* とともに „*eine schnelle Bewegung*“ という意味合いを含んでおり、7)は „*Blitz und Donner fuhren aus den Wolken.*“ とも考えられることから、*fahren* の *Variante* 5 との関連性が認められる。

*erfahren* では統語的には8)~10)すべてにみられるように、「認識する対象」としての意味を担う4格目的語、あるいは副文が *erfahren* に続き、他動詞用法がほとんどである。

*er-* は „*auf etwas steigen* → *etwas ersteigen*“ というような4格化作用をもっているのだが、*fahren* と *erfahren* にかんしてはこういった書き換えはできず、意味的にも両者の共時的な関連性は希薄である。

11)~14)の *verfahren* については、11)だけが様態を示す語句をとともなり自動詞となり、その他は再帰代名詞あるいは4格名詞をとる他動詞である。意味的にはこれらの文例のうち12)、13)がそれぞれ „*in die falsche Richtung fahren*“、„*durch Fahren verbrauchen*“ という意味になり、*fahren* の *Variante* 1、2 との関連性がここで認められる。

最後に *zer-* では、15)、16)のように *fahren* することによって破壊される対象である *die Straße*、*die Kohlen* が4格目的語として現れている。この *zerfahren* に対して

基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer-の作用

Agricola は entzweifahren という訳語を与えており<sup>2)</sup>、fahren の Variante 1 との関連性をここでも認めることができる。

このようにみえてくると、基礎動詞 fahren と意味的に最も近い関係にあるものは befahren で、次いで entfahren、zerfahren、verfahren、そして erfahren がその基礎語 fahren に対して最も弱い関連性をもつ前綴であるということが考えられる。また fahren の Variante のうち、それぞれの前綴動詞との意味的対応関係が最も顕著であったものは V2 の7例で、V1 が2例、V5 が2例という結果であった。またヴァレンツにかんしては、be- や ent- のように、前置詞目的語をそれぞれ4格あるいは3格の目的語に変化させるという現象がみられたが、全体的にみると、再帰動詞化されたものが1例、そして16例のうち12例が Sa の4格目的語をとっており、非分離前綴付加による他動詞化の影響がここには認められる。

2. 次に、gehen に非分離前綴を付加した場合の例を以下に挙げ、考察を進めていくことにする。

begehen: 1) Ich beging den Kiesweg (leisen und raschen Schrittes).

1') Sn - Vf - Sa

2) Er beging die Eisenbahnstrecke.

2') Sn - Vf - Sa

3) Er begeht seinen 50. Geburtstag. (geh.)

3') Sn - Vf - Sa

4) Sie beging Selbstmord/einen Fehler.

4') Sn - Vf - Sa

entgehen: 5) Er entging dem Tode/einer Gefahr/den Verfolgern.

5') Sn - Vf - Sd

6) Einige Fehler entgingen mir/meiner Aufmerksamkeit.

6') Sn - Vf - Sd

ergehen: 7) Ein Befehl ergeht (an ihn).

7') Sn - Vf (- pSa)

8) Es ergeht mir gut.

8') 0(es) - Vf - Sd - modal

9) Er ergeht sich in Vermutungen.

9') Sn - Vf - Refl - pSd

10) Er erging sich (im Garten). (geh.)

10') Sn - Vf - Refl (- pSd)

- vergehen: 11) Die Tage vergingen (mir wie im Fluge).  
 11') Sn - Vf  
 12) Die Sinne vergingen ihm.  
 12') Sn - Vf - Sd  
 13) Der Geruch/die Liebe vergeht.  
 13') Sn - Vf  
 14) Die Menschen vergehen. (geh.)  
 14') Sn - Vf  
 15) Ich vergehe vor Durst/Langeweile.  
 15') Sn - Vf - pSd  
 16) Er verging sich gegen die guten Sitten/gegen das Volk/an dem Kind.  
 16') Sn - Vf - Refl - pSa/pSd
- zergehen: 17) Das zergeht (in der Sonne).  
 17') Sn - Vf (- pSd)  
 18) Zucker zergeht (in Wasser).  
 18') Sn - Vf (- pSd)  
 19) Das Fleisch zergeht (auf der Zunge.)  
 19') Sn - Vf (- pSd)

さてここで、gehen についての Helbig/Schenkel の分類をみると次のようになる。

V1: Sn - Vf (- pS/Infinitiv) [Der Junge, das Pferd geht in den Stall./Er geht einkaufen.], V2: Sn - Vf - pS [Der Brief geht nach Dresden.], V3: Sn - Vf [Die Uhr geht.], V4: 0(es) - Vf - Sd - modal [Es geht dem Patienten gut.]

この分類に基づいてまず begehen をみると、本来自動詞的性質しかもたない gehen に対して、1')~4')の begehen のヴァレンツには、すべて等しくどの用例にも Sa の4格目的語が現れており、つまり begehen においては、be- の他動詞化作用がきわめて強く働いているということがわかる。そしてこれらのうち1)、2)の Sn は「人」であり、Sa は gehen して通過する領域を表している。gehen との関係に目を向けると、1)、2)はそれぞれ „Ich ging auf dem Kiesweg.“、„Er ging prüfend an der Eisenbahnstrecke entlang.“ といった書き換えが考えられ、つまりこの場合の begehen は、gehen の Variante 1 と意味的に関連づけることができるが、3)、4)においてはそれは難しい。

entgehen では、例文5)、6)のいずれにおいても3格目的語がとられており、そしてこれらは gehen という動作の起点をそれぞれ表しているため、ここでも gehen の V1 が意味的に強く影響を及ぼしている。

## 基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer-の作用

次に ergehen であるが、用例7)~10)において Sa はなく、9)、10)に再帰動詞としての用法はあるが一般的な他動詞として用いられることはなく、be- とは逆に er- による他動詞化の影響は、ergehen においてはみられない。また、7)は „Ein Befehl geht offiziell heraus.“ と考えられ、8)の ergeht はそのまま geht と入れ換えが可能である。従って7)には gehen の V2 が、8)には V4 が、そして spazierengehen という意味合いの10)にはV1 がそれぞれ対応しているものとみられ、9)の用例にかんしては、gehen の Variante のなかに対応関係を見出すのは困難であると思われる。

次の vergehen についても11')~16')において Sa は見あたらず、再帰動詞化を除いてはヴァレンツへの影響もなく、ver- の他動詞化作用は及んでいない。gehen との対応関係をみると、11)の vergehen は vorbeigehen という意味合いであり、Sn が時間軸を過去へと移動する動作を gehen が表現しているため、これには gehen の V2 が対応する。また、12)、13)も「消滅」という比喩的表現としてこの延長線上で考えることができ、さらに14)、15)では Sn を「人間」に限定して「死」というニュアンスが表現されているため、これは gehen の V1 との関係で把握することができるだろう。最後の zergehen でも、Sa をとるといようなヴァレンツの変化はみられなかった。

基礎語に gehen をもつ非分離動詞においては、gehen の Variante 1 と意味的な関連性をもっていると思われるものが9例あり最も多く、次いで V2 が2例、V4 が1例となっている。またヴァレンツについては、4格目的語をもつようになったものは19例のうち4例、そして再帰動詞化されたものは3例という結果で、前綴付加による他動詞化作用はここではあまり認められない。

3. 最後に、fahren、gehen と同様に、非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer- すべてが共通してもつ、Fortbewegung を表す動詞 laufen についての考察を行うことにする。

belaufen: 1) Die Summe beläuft sich auf etwa 1000 DM.

1') Sn - Vf - Refl - pSa

2) Der Eisenbahner beläuft die Strecke.

2') Sn - Vf - Sa

3) Die Frontscheiben des Autos belaufen.

3') Sn - Vf

entlaufen: 4) Der Hund entläuft seinem Herrn.

4') Sn - Vf - Sd

5) Der Gefangene entläuft dem Gefängnis.

5') Sn - Vf - Sd

erlaufen: 6) Er erlief einen neuen Weltrekord.

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

6') Sn - Vf - Sa

7) Er erlief (selbst) unerwartete Bälle.

7') Sn - Vf - Sa

8) Du erliefst dir viele Trophäen.

8') Sn - Vf - Sd - Sa

verlaufen: 9) Die Straße verläuft schnurgerade/durch die Stadt/an der Grenze.

9') Sn - Vf - modal/pS

10) Die Feier verlief würdig.

10') Sn - Vf - modal

11) Die Butter verläuft.

11') Sn - Vf

12) Die Tinte verläuft (auf dem schlechten Papier).

12') Sn - Vf

13) Die Spur verlief im Sand.

13') Sn - Vf - pSd

14) Der Pfad verläuft sich im Dickicht.

14') Sn - Vf - Refl - pSd

15) Das Öl verläuft sich.

15') Sn - Vf - Refl

16) Das Kind verläuft sich.

16') Sn - Vf - Refl

17) Die Menschenansammlung verlief sich (langsam).

17') Sn - Vf - Refl (- modal)

18) Eine Hausfrau verläuft viel Zeit(/den ganzen Tag).

18') Sn - Vf - Sa

zerlaufen: 19) Schokolade zerläuft.

19') Sn - Vf

そして Helbig/Schenkel による laufen の分類は以下である。Variante 1: Sn - Vf [Der Motor läuft.], V2: Sn - Vf (- pS) [Das Kind läuft (in die Schule)], V3: Sn - Vf - Sa [Der Junge läuft Schlittschuh.], V4: Sn - Vf - pSa [Ein Geraune lief durch die Menge. / Ein Schauer läuft mir über den Rücken.] まず belaufen にかんしてであるが、共時的にみて laufen との間に意味的な対応関係が考えられるのは2)の用例で、ここでの Sa は、laufen して通過する領域を表しており、belaufen の場合これに prüfend、suchend の意味が付加されているのだが、統語的には

基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer-の作用

V3 と同じく他動詞用法でヴァレンツに変化はみられない。また3)の文例も、ヴァレンツ的には V1、V2 と同じではあるが意味的なつながりは希薄である。

次の entlaufen では、fahren、gehen と同様に動作の起点を表す3格目的語がとられており、4)、5)共に „Der Hund läuft seinem Herrn davon“、„Der Gefangene läuft dem Gefängnis davon.“ という書き換えができ、laufen の V2 との対応関係が認められる。

erlaufen については、まず6)の文例で „Er lief einen neuen Weltrekord.“ という laufen での書き換えが可能であり、この用例は V3 と同様のヴァレンツをもっている。また7)、8)も、er- によって付加された「得る」という意味の対象となる4格目的語をそれぞれとっているため、つまり laufen は er- の付加によって、他動詞用法にだけ限定されていることがわかる。

次に verlaufen は、9)~18)と大きな広がりをもつ語ではあるが、この10例のうち Sa をとる他動詞用法は18)だけにしかみられず、ver- 付加による他動詞化の影響は laufen においては非常に弱い。また laufen との関係では、9)の verlaufen は laufen と置換が可能で V4 との対応関係が認められ、さらに10)の意味で laufen を用いることも可能である。次に16)の verlaufen は、„zu Fuß irgendwohin gehen und sich dabei verirren“ ということでありここでは V2 との関連性が、そして17)も auseinandergehen の意味から同様に V2 との関連性があるものと思われる。18)は „mit Laufen verbringen“ という書き換えが可能であるため、これも V2 との関係で考えることができる。最後の zerlaufen は11)の verlaufen と同じ意味であるが、laufen との直接的な関係は見出し難い。

さて上記の非分離動詞において、その基礎語 laufen との関連性を整理してみると、V2 との関係を考えることができたものは5例、V3 が4例、そして V4 が2例という結果であった。また Sa の4格目的語をとるものは5例、再帰動詞化されたものは fahren、gehen と較べると最も多い5例見つかった。

4. 以上、Fortbewegung を表す動詞 fahren、gehen、laufen にそれぞれ非分離前綴を付加した場合の、意味及びヴァレンツの変化を調べてきた。fahren、gehen、laufen のような意味的に類似した基礎語に、同一の前綴を付加しているため、共通した作用が現れるはずであり、実際そういった例もあるのだがその反対に、その作用がまったく異なるという場合もある。ここではまず be- からその例をみていくことにする。

befahren、begehen、belaufen すべてに共通する作用は、そのどれもが fahren、gehen、laufen するべき場所・領域を4格の目的語にとっている点である。これに対して „den Weg mit Kies befahren (道に砂利を敷く)“、„seinen 50. Geburtstag



begehen（50歳の誕生日を祝う）“、„Selbstmord begehen（自殺する）“、„sich auf ~ belaufen（～の金額に）達する“、„Die Frontscheiben belaufen（フロントガラスが曇る）“ という例においては、類似した意味の基礎動詞に、同じ前綴が付加されているにもかかわらず方向の違う意味が現れている。ent- にかんしては、entfahren、entgehen、entlaufen すべてにおいて、動作の起点を表す3格目的語が現れており、前綴 ent- の作用に差はないが、er- についてみると、前章で考察したように、erfahren は「認識」、「経験」、ergehen では「（命令などが）発せられる」、「状態」、「あることにふける(Refl)」、「散策する(Refl)」、そして erlaufen には「走って獲得する」という意味合いがそれぞれあり、これらすべてに共通する意味特徴は見あたらない。

次に ver- で、3つの基礎語すべてに共通あるいは類似した ver- の作用を受けていると思われるものは、再帰代名詞をとる verfahren の「（乗り物で（が））道に迷う」、vergehen の「違反・悪事を行う」、verlaufen の「（歩いて）道に迷う」という意味合いで、いずれも ver- によって再帰動詞化され、negativ な意味を付加されている。これ以外にも、vergehen と verlaufen との間には „Die Tage vergingen.“ と „Die Feier verlief würdig.“ のように、どちらにも時間の経過が表現されており、また „Der Geruch vergeht.“ と „Die Spur verlief im Sand.“ では、「消滅」の意味が共に含まれている。verfahren と verlaufen との間では、verfahren の „viel Zeit, Benzin, 50 DM mit dem Taxi verfahren“ と、verlaufen の „viel Zeit verlaufen“ とが、それぞれ消費すべきものを4格目的語にとる他動詞の用法として共通している。しかしこれらに対して „streng verfahren（厳しい態度をとる）“、„Die Sinne vergingen ihm.（彼は意識を失った）“、„schnurgerade verlaufen（（道が）まっすぐに延びている）“、„Die Tinte verläuft.（インクがにじむ）“ といった用例では、その各々が互いに異質なもの同士のように思われ、つまり同一の前綴と類義語との組み合わせから、互いにまったく異質な意味合いが形成されているわけで、この現象は今後の課題として興味深い問題であると思う。

なお、zer- については、zergehen と zerlaufen との間には「溶ける」という自動詞の意味で共通点がみられるが、「fahren して破壊する」という他動詞の意味をもつ zerfahren は異質なものであった。

5. 以上のようにして、主要な非分離前綴 be-, ent-, er-, ver-, zer- すべてが共通してもつ基礎動詞 fahren, gehen, lassen, laufen, schlagen, setzen, sorgen, strahlen のうち、Fortbewegung を表す動詞 fahren, gehen, laufen にかんして、これらに対する前綴の影響を観察してきたのだが、最後にこれらの Präfixverben のヴァレンツとその意味特徴について考えてみる。

基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-、ent-、er-、ver-、zer-の作用

	Sn/Hum: Anim	Sa/Hum: Anim	Sd/Hum: Anim	pSd/Hum: Anim:Dir	pSa/Hum: Anim:Dir	NS	Refl	Mod
befahren:	1	+ / + : -	+ / - : -	-	-	-	-	-
	2	+ / + : -	+ / - : -	-	(+ / - : - : -)	-	-	-
	3	+ / + : -	+ / - : -	-	(+ / - : - : -)	-	-	-
	4	+ / + : -	+ / - : -	-	+ / - : - : -	-	-	-
	5	+ / + : -	+ / - : -	-	-	-	-	-
entfahren:	6	+ / - : -	-	+ / + : -	-	-	-	-
	7	+ / - : -	-	+ / - : -	-	-	-	-
...	...	...	...	...	...	...	...	...

(Hum=human, Anim=animate: +は人以外の動物、-は事物, Dir=direction, NS=Nebensatz, Refl=Reflexivpronomen, Mod=modal)

このような要領でそれぞれの Präfixverben を調べ、再帰動詞化及び Sa をもつ他動詞化の作用をまとめてみると次のようになる。

前綴付加による Refl、Sa の出現変化および Sn、Sa の意味特徴

	fahren	gehen	laufen
	R:Sa:Sn=Hum/-Anim: Sa=Hum/-Anim	R:Sa: Sn=Hum/-Anim: Sa=Hum/-Anim	R:Sa: Sn=Hum/-Anim: Sa=Hum/-Anim
be-	0:5: 5/[5]:0/5 (5)	0:4: 4/0:0/4 (4)	1:1: 1/2:0/1 (3)
ent-	0:0: 0/2: - (2)	0:0: 1/1: - (2)	0:0: 1/1: - (2)
er-	0:3: 2/1:0/3 (3)	2:0: 2/1: - (4)	0:3: 3/0:0/3 (3)
ver-	1:2: 4/[1]:0/2 (4)	1:0: 3/3: - (6)	4:1: 3/7:0/1 (10)
zer-	0:2: 0/2:0/2 (2)	0:0: 0/3: - (3)	0:0: 0/1: - (1)

各数字は用例数、( )内は各項目の例文総数

この表で再帰動詞化にかんしては、be- を付加した場合 laufen についてだけ1例みられ、また ver- の付加では、fahren、gehen に1例ずつしか再帰代名詞がみられないのに対して、laufen では4例みつまっているため、再帰動詞化については、Fortbewegung の意味内容をもつ fahren、gehen、laufen のあいだでは、laufen においてその傾向が強いといえそうである。次に Sa の4格目的語にかんして er- の作用に着目すると、er- が fahren、laufen と結合した場合には、完全に他動詞の用法しかみられないのに対して、gehen との結合時にはまったく逆で Sa は現れていない。また gehen は ver- との結合時にも4格目的語をもたず、このことは verlaufen についてもいえることで、verlaufen にわずかに1つ現れている Sa も「時間」を表す語に限定されているものである。そして zer- においては、fahren では2例ある用例のうちいずれもが他動詞であるのに対して、zer- が gehen、laufen と結合した場合には自動詞の用法しかみられない。従って、前綴付加によって他動詞化の作用が最も顕著にあらわれたのは fahren においてであって、

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第13号（1993年）

これと類似した意味内容をもつ *gehen*、*laufen* においては、同じ前綴を付加してもその影響を受けにくいということがいえる。また主語、目的語の意味特徴については、*fahren*、*gehen*、*laufen* いずれにかんしても、Sn 主語において「人」と「事物」が同程度の割合で出現しているのだが、Sa 目的語については、そのすべてが事物を表す語に限定されている<sup>3)</sup>。そして個別的に目立った現象がみられたのは *begehen* と *erlaufen* で、*begehen* では用例のうちすべてが Sn に「人」を、Sa に「事物」をとっており、また *erlaufen* においても同様のことが観察されていて、このことは前綴との関係で考えることができるものなのかもしれない。

以上のようにして、5つの前綴が共通して結合し、また *Fortbewegung* の意味を共通してもっている動詞 *fahren*、*gehen*、*laufen* について、これらの動詞と非分離前綴との関係を考察してきたわけだが、*be-*、*ent-*、*er-*、*ver-*、*zer-* すべてに共通している機能を、*fahren*、*gehen*、*laufen* という基本的な動作を表す動詞において見出すには至らなかった。

今後はさらに考察対象の基礎動詞を、5つの主要前綴が共通してもっている *lassen*、*schlagen*、*setzen*、*sorgen*、*strahlen* へと広げ、前綴の根本的な働きを探っていきたい。

#### 注

- 1) Helbig, Gerhard/ Schenkel, Wolfgang: Wörterbuch zur Valenz und Distribution deutscher Verben. 8., durchgesehene Auflage. Tübingen 1991.
- 2) Agricola, Erhard: Wörter und Wendungen. Mannheim 1992.
- 3) *zerfahren* では Sa は「事物（動物）」であるが、この語が形容詞として用いられた場合、「人」にかんして述べられるという現象もある。

#### 参考文献

- Brockhaus-Wahrig. Deutsches Wörterbuch. Wiesbaden/ Stuttgart 1980-1983.  
 Der Sprach-Brockhaus. Deutsches Bildwörterbuch. 9. Aufl. Wiesbaden 1984.  
 Duden: Das große Wörterbuch der deutschen Sprache in 6 Bänden. Mannheim/ Wien/ Zürich 1976-1981.  
 Duden: Grammatik der deutschen Gegenwartssprache. 4. Aufl. Mannheim/ Wien/ Zürich 1984.  
 Duden: Stilwörterbuch der deutschen Sprache. 7. Aufl. Mannheim/ Wien/ Zürich 1988.  
 Fleischer, Wolfgang/ Barz, Irmhild: Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache. Tübingen 1992.  
 Kempcke, Günter: Handwörterbuch der deutschen Gegenwartssprache in 2 Bänden. Berlin 1984.  
 Klappenbach, R./ Steinitz, W.: Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache. Berlin 1961ff.

基礎動詞 fahren、gehen、laufen に及ぼす非分離前綴 be-, ent-, er-, ver-, zer-の作用

Schröder, Jochen: Fortbewegungsverben als Beschreibungsproblem (Simplicia -  
adverbialzusatz - be-Präfixe). In: DaF 1983/4, S.213-219, 1983/5,  
S.270-277.

Schröder, Jochen: Lexikon deutscher Präfixverben. Berlin, München, Leipzig 1992.